

東京 IPO 特別コラム

2021年3月18日 Vol.175

全体相場は強いが3月IPO銘柄は気迷い状況

桜の開花が伝えられ春本番を迎えようとしている今日この頃。日本株は相変わらず米国株高に連動し強い展開が見られる。日経平均が再び3万円台乗せとなる一方でこれまで出遅れ気味だったTOPIXが2000ポイント台乗せ。NT倍率が低下する動きとなっており、これまでファーストリテイリングやソフトバンクグループなどに偏りがちだった動きから出遅れ気味に推移してきた幅広い銘柄に物色気運が高まりつつある。こうした相場展開の中で3月のIPOは16日のウイングアーク1st(4432・東証1部、以下WA社)、ヒューマンクリエイションホールディングス(7361・マザーズ、以下HC社)の取引が始まっている。この後本日のi-plug(4177・マザーズ)、19日のココナラ(4176・マザーズ)、T.S.I(7362・マザーズ)と続く。3月のIPO銘柄数は13銘柄に留まるがこれは去年の24銘柄を大きく下回っている。この背景としては、IPO時に必要な成長可能性資料作成に人手を要しており事務作業が遅れていることが挙げられている。ただその分は需給が良くなる筈なので投資家にとってはポジティブに受け取って良いだろう。

ただ、全体相場が横に広がりを見せる堅調な地合いの中で16日のWA社もHC社も初値こそ公開価格を上回る堅調なスタートを見せたものの、その後の展開はやや気迷い気味となっている。企業の情報活用促進ソフトウェアを展開するWA社は公開価格1590円に対して初値は2000円。その後は1900円割れを演じるなど頭重い展開だ。かつて上場していたことのある同社は東証1部銘柄としての再上場。極端な割高感もない一方で今後の成長性への投資家の期待も小さいという可能性が株価に反映されていると言う感触だ。また、技術者派遣を主たる業務とするHC社も公開価格2120円に対して初値は3505円で65%上回るなど成長への期待が集まったが、その後株価は本日2600円割れまで売られるなど気迷い商状。IPO銘柄への期待は高いと見られる一方で既存の上場企業に見られるようなビジネス、成長期待の低いビジネスモデル、PERなどの指標面で割高感のある銘柄を避けようとする機運が台頭してもおかしくない。折しも3月は配当取りのシーズンでもあり個人投資家の目はこれまで株価の変動がなかった出遅れ銘柄や高配当銘柄群に注がれているようだから今後のIPO銘柄はこれまでほど関心を集めない可能性もある。IPO投資はこれまで以上に個々の銘柄のビジネス内容をしっかり吟味していく必要があるだろう。

ユニークさで言えば人の能力や才能、経験、スキル等を商品化して売買するスキルマーケットを運営する19日のココナラに関心が集まりそうで初値はかなりの人気化が予想される。また24日のシキノハイテック(6614・JQ)は半導体検査装置の開発・製造、LSI設計会社で半導体レーザー企業、QDレーザー(6613・M)が人気化したようにモノづくりに絡むハイテック系企業として注目される可能性がありそう。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)